

今年のこどもの劇場は、 「マ임×浅野和之×シンデレラ」!?

今年のこどもの劇場でお届けするのは、異色のシンデレラ。謎だらけの公演に迫るため、演出・出演のカンパニーデラシネラ 小野寺修二さんと主演の浅野和之さんにお話を伺いました。「わからない」から惹きつけられる。「違う」からこそ面白い。子どもも大人もトリコになる魅惑の体験をぜひ劇場で!

凸凹の礼賛ができると、今回の浅野さんシンデレラの異色さにも、美しさを見つけていただけるのではないか

——「カンパニーデラシネラ」について教えてください。

カンパニーデラシネラはパントマイムの考え方をベースに、身体を使って視覚的に見せる舞台を作っています。セリフはありません。今は情報が溢れる世の中で、丁寧さ、わかりやすさが良しとされていますが、デラシネラの舞台における「余白」を、観る人が五感をフルに活用させて、一緒に舞台を作る感覚として味わってもらいたいと思っています。特に「古典名作劇場シリーズ」では、子どもたち、これまで演劇にあまり触れてこなかった人たちにも出会いたい。観客と出会って初めて分かることも多く、生である強み、双方向性でありたいと思っています。一緒に答えを探して、お互いが自分自身を見つけて。その作業は楽しいはずで、豊かなことだと思っています。

——なぜ今、『シンデレラ』に取り組もうと思われたのでしょうか?

今回は浅野和之さんがシンデレラです。“デラシネラ版”シンデレラとして新たな切り口が見つかりそうだとひらめいたのですが、稽古を始めてみると、ちょっとキャッチーさを取りすぎたかな、と苦戦しています(笑)。「灰まみれの女の子が変身して王子様に見そめられる」原作をひねろうとスタートしたのですが、キラキラした異世界に“あこがれる”ことや、自分を“特別な存在”と思いたい気持ちを否定することでもない。今回目指したいのは、均一の美しさではない、凸凹の美しさ。凸凹の礼賛ができると、今回の浅野さんシンデレラの異色さにも、美しさを見つけていただけるのではないか。決して均一なものだけが正しいとも限らない、そんなメッセージを掲げたいと思っています。

——なぜ浅野和之さんをシンデレラにと思われたのでしょうか?

「古典名作劇場シリーズ」はこれまでにろうの舞踏家・雫境さんや、今回は台湾の劉睿筑さんにもご出演いただき、国籍、文化が違ういろんな人に参加してもらっています。浅野さんに期待することは、「身体を優先させた表現」です。これまで演劇界を引っ張ってこられた方で、身体を使った演劇表現の先駆者でもあり、なにより本人がそのことに興味を持ち続けていらっしゃる。子どもたちが浅野さんを身近な距離で見ること、その空気だったりを、生で感じてもらいたいです。世の中の「こうあるべき」という考え方を緩めたいと思っています。シンデレラは若い女性というイメージがある中、浅野さんが演じることで、もっといろんな見方がある、自分の見方でいいと気付いてもらえるのではないかと考えています。



はだかの王様 (2025年)



小野寺 修二



今回公演作品 シンデレラより

《絵本》でよむシンデレラは——

シンデレラは、父親が亡くなったあと、継母と2人の姉に毎日家事をさせられていました。ある日、王子様が舞踏会を開くことになりましたが、シンデレラは連れて行ってもらえませんでした。すると、魔法使いが現れ、シンデレラに美しいドレスとガラスの靴、かぼちゃの馬車を用意してくれました。ただし、魔法は12時までしか続きません。シンデレラは舞踏

あらすじ



会へ行き、王子様と楽しい時間を過ごしました。12時の鐘が鳴ると、シンデレラは急いで帰りました。その途中で、ガラスの靴を片方落としてしまいます。王子様はその靴を手がかりに、持ち主を探しました。執事がシンデレラの家を訪れ、ガラスの靴を履かせると、ぴったり合いました。シンデレラは王子様と結ばれ、シンデレラと王子様は幸せに暮らしました。

こういうセンスのあるパントマイムの集団が日本に出来たんだっていうのが、すごい感動でしたね

——パントマイムが特技で趣味と伺いました。

言葉を使わずに表現する面白さや難しさを教えてください。

想像力の跳躍ができる。それが一番パントマイムの可能性としてあると思うんですね。言葉が介在しない分、想像力を使ってどんな世界にも飛んでいける。そこがやっぱりパントマイムの魅力というか、面白さじゃないかなと思います。状況の細部に渡ったとき、どうしても言葉が重要になってくるところでは難しいと思う時もあります。それを動きで伝えるにはどうしたらいいか、切磋琢磨しながら新しい表現を生み出していく。そこがなかなか難しくもあり面白いですね。

——以前からデラシネラ作品への出演を希望されていたとのことですが、デラシネラ作品の魅力はどんなところにあると感じていますか?

パントマイムの魅力を十二分に引き出している、言葉はないけどより演劇的なものになっているのが面白さじゃないでしょうか。かつてのパントマイムから一段上げてきたというか。最初に観たのは前身の集団だったときで、あのとき僕は50歳だったかな。「30歳だったらこのドアを叩いていたな」っていうくらい衝撃だったんですよ。こういうセンスのあるパントマイムの集団が日本に出来たんだっていうのが、すごい感動でしたね。

——以前もデラシネラに出演されていますが、実際に作品づくりに参加されてみていかがでしたか?

楽しいんですよ、すごく。何がっていうと、台詞を覚えなくていい(笑)。ただ肉体は相当過酷でしたね。すごく驚いたのが、「ジャッシュ」とか「シャーツ、ジャッシューツ」とか、リズムを音に変換するんです。今まで体験したことがなくて面白かったですし、演劇は台本があるけれども、とにかく身体を動かしてつくっていくしかないというか。アイデアだけを持ち込んで、ひたすら動いて骨組みをつくっていく。つくっては壊し、つくっては壊し、地味だしすごく大変な作業です。でも、出来上がったときは芝居とはまた違う達成感があります。シンデレラはまだ始まったところで模索中ですが、僕もアイデアを出しつつ、小野寺さんにすべて委ねようと思います。

こどもの劇場2026

カンパニーデラシネラ 古典名作劇場「シンデレラ」 12/13(日) 14:00開演 セキショウ中劇場

ALL 託児 車いす with PAY チケレス 主催

(料金) 指定/小学生1,000円 中学・高校生1,500円 大学生以上2,000円
withチケット(介助者用)500円 未就学児無料(要事前申込)

(演出・出演) 小野寺修二

(出演) 浅野和之 藤田桃子 崎山莉奈 劉睿筑 ユーリック永扇

(お申込み・お問合せ) アリオスケットセンター 0246-22-5800(10:00~20:00 火曜定休)

※終演後、関連企画「ちょこっとマイム体験」あり

小野寺修二さん
浅野和之さんの
インタビュー
完全版はこちら

10/17(土)
10:00
予約開始



©チャーハン・ラモーン